2014年版のあとがき

2009年に本書の初版を刊行して以来，5年の歳月が流れた。この間，わが国は東日本大震災に見舞われたり，周辺諸国から言いがかりとしかいいようのないような難癖をつけられたり，まさに踏んだり蹴ったりの状況にあるといって良い。前者は，私たちが世界の最果てにある力学的に不安定な孤島に暮らす以上，覚悟しなければならない自然災害であり，ただただ備えを堅くする以外に対処のしようのないものであるが，後者は，相手側に主因があるにしても，党派によらず歴代の政権の脇の甘さと外交能力の著しい欠如によって，問題が複雑化し，その解決がいっそう困難なものになってしまったことも否めない。

立憲主義のイロハも理解していない総理大臣や，軍事オタクの第一党幹事長は，こうした状況を顧みるどころか，むしろそれに乗じて，軍事行動を推進しようとし，米国と血判を交わすがために，わが国兵士に死者の出ることをむしろ期待しているかのような言辞さえ弄するのは，狂気の沙汰であるとしか言いようがない。しかし，そのとき真っ先に犠牲を強いられる若い世代に，所謂（いわゆる）ネトウヨとして，こうした動きを助長するかのような言動をするものがあとを絶たないのは，自信のなさの裏返しであるとはいえ，権力者の思うツボであることを認識してほしいものである。

群馬県と栃木県の間に起こった紛争を，各県警の撃ち合いによって解決しようという人がいないのと同じように，ドイツとフランスの間の問題を戦によって決着をつけようということも，もはや金輪際ないであろう。私たちの周辺も，相当の時間を要するにしても，いずれはそのように成熟していくことだろう。

大陸からの来訪者の成金趣味や行儀の悪さを嗤（わら）うのは容易なことだが，しかし，日本人旅行者もかつては欧州の銘品を買い漁っていたし（現在パリの百貨店の日本人向け売上げは往時の十分の一に落ちているという），さらには，私の子供の頃，国鉄の急行電車（直角の背ずりを持つクロスシート車）の床はゴミ箱と同じだとみなされ，使い終わった駅弁の殻はイスの下に置いておけばよいことになっていたので，目的地に着く頃には，電車の床はゴミだらけになっていた。飼い犬の糞を片付ける習慣もなかった。

東日本大震災のあとに被災者の見せた民度の高さはもちろんのこと，また先般のサッカーワールドカップの際には，試合終了後日本人サポーターがゴミ拾いをして世界を驚嘆させたように，今日わが国の文化文明は世界の最高峰に達していることは疑いない。しかし，当たり前のことだが，日本人が歴史上ずっと偉かったというわけではない。四十年前の日本は，公害に悩みゴミだらけだったし，ましてや七十年前は，外では侵略戦争，内にあっては空襲でいつ命を落とすかもしれず，食うや食わずの状態で人心は荒廃していた。こうした歴史は何ら総括されていないのである。

敗戦後，ついに国民自身の手で戦争責任の追及がなされなかったのと同じように，原発事故の責任もいつのまにかうやむやにされつつあるような昨今であるが，私たちは目を見開き，よく考え，よく行動したい。

2014年6月

横山順一